



TOPIC 1 広がる内窓提案、潜在需要の掘り起こしがカギに

窓改修の中でも手軽で、市場拡大の期待がある「内窓」の提案が加速している。内窓に対する補助として先進的窓リノベ事業があるが、今年の予算消化率は前年を下回るペースとなっている。需要が一巡したという指摘があるなかで、潜在ニーズを掘り起こす取り組みが進む。

YKK APは、内窓商品を23年ぶりにフルモデルチェンジ。取り付け寸法を従来品より23mm小さくした「ウチリモ内窓」引違い窓を7月7日に発売した。最大の特徴は、既設窓の額縁の取付寸法が最小47mmあれば、ふかし枠(額縁の延長部材)を使わずに「枠持ち出し納まり」で設置できる点。ふかし枠なしでの対応できる現場を広げ、特に集合住宅市場の需要掘り起こしを図る。

一方、パナソニック ハウジングソリューションズは、この8月から「内窓」のラインアップ強化を行う。同社は、昨年7月に内窓市場に参入、居室・リビング向けの2枚建て引違い窓を販売しているが、4枚建ての引違い窓や、浴室向けのタイル納まり・ユニットバス納まり、開き窓など窓種



YKK AP(左)と、パナソニック ハウジングソリューションズ(右)が内窓を相次いで発売

を大幅に追加し、住宅のほぼ全ての窓に対応できるようになった。フローリングのリフォーム向け商品や、内装ドア商品とのパッケージ提案を行い、市場開拓を図っていきたい考えだ。

そのほか、窓改修によるメリットが生活者にまだまだ浸透していないとして、(一社)日本サッシ協会では、「快適な住まい情報室」を設立した。生活者に窓改修のメリットの発信を強化していくことで、潜在需要の掘り起こしを図る。

TOPIC 2 新築戸建の長期優良認定、5年連続過去最高

国土交通省がまとめた令和6年度の「長期優良住宅の認定状況」によると、新築戸建て住宅の認定実績が5年連続で過去最高を更新し、新築住宅着工戸数に占める割合が4割近くにまで高まったことが分かった。3戸に1戸以上が長期優良住宅となっている。

全国の所管行政庁の令和6年度の長期優良住宅の認定実績に関わる調査によると、新築の認定実績は前年度比25%増の14万5073戸となった。累計では173万戸に達した。

戸建て住宅は、同22.9%増の13万6842戸で一気に13万戸台を突破した。戸建て全体の新築着工に占めるシェアは39.3%となり、31.3%だった令和5年度に比べて、8.0ポイントも上昇した。

都道府県別にみると、最も多いのは愛知県で1万6,394戸、次いで埼玉県8,741戸、東京都8,580戸、神奈川県7,582戸と続く。愛知県がダントツで多いのが特長だ。

共同住宅は同70.7%増の8231戸。令和5年度も前年度比90.5%増となっており、2年連続で大幅増な増加を記録した。共同住宅でも長期優良住宅認定が広がりつつあることが伺える。増築・改築の実績は101戸となり、前年度の増加から再び減少した。令和4年10月からスタートした既存住宅は88戸だった。

この結果、新築の累計(平成21年6月～令和7年3月)は、173万5808戸となった。このうち戸建て住宅が169万4243戸だった。

新刊

省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約

創樹社

必携 住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025

住宅・建築に関わる企業、地方自治体、性能評価機関などに向けた必携の書

